

第49回

足立区政に関する世論調査

2020(令和2)年 8 月 実施

《概要版》

足立区では、昭和47年から区民の方を対象とした世論調査を実施しており、今回は第49回となります。世論調査の実施にあたっては、多くの区民の皆様にご協力いただき心からお礼を申し上げます。調査結果は、区政運営のための基礎資料として今後の施策に活用してまいります。なお、「第49回足立区政に関する世論調査」の全容をお知りになりたい方は、区のホームページ、区内の各図書館及び区役所区政資料室でご覧いただけます。

今回の調査では、区の取り組みについて、現状評価（満足度）が低く、重要度の高い分野として、前回と同様に「防災対策」「治安対策」「交通対策」などがあげられています。

また、継続的に聴取している「居住地域の治安」では、平成27年以降良いと評価する人が半数を超えて、今回は6割強となっています。

なお、「区に愛着をもっている」「区に誇りをもっている」「区を人に勧めたい」という人は、ここ数年、高い割合を維持していることに加え、平成30年から聴取している「区を良いまちにするために何かしたい」と考える人が半数以上に達していることも、注目に値します。

- 定住性
- 大震災などの災害への備え
- 洪水対策
- 区の情報発信のあり方
- 健康
- スポーツ・読書
- ビューティフル・ウィンドウズ運動
- 環境・地域活動
- 「孤立ゼロプロジェクト」など
- 協働・協創
- 区の取り組み

調査の概要

- ◇対象者…… 20歳以上の区民
- ◇対象者の抽出…… 単純無作為抽出法
- ◇対象者数…… 3,000人
- ◇調査方法…… 郵送配布郵送回収法
- ◇回収数(率)…… 1,746人 (58.2%)
- ◇調査時期…… 2020(令和2)年8月



2021(令和3)年3月

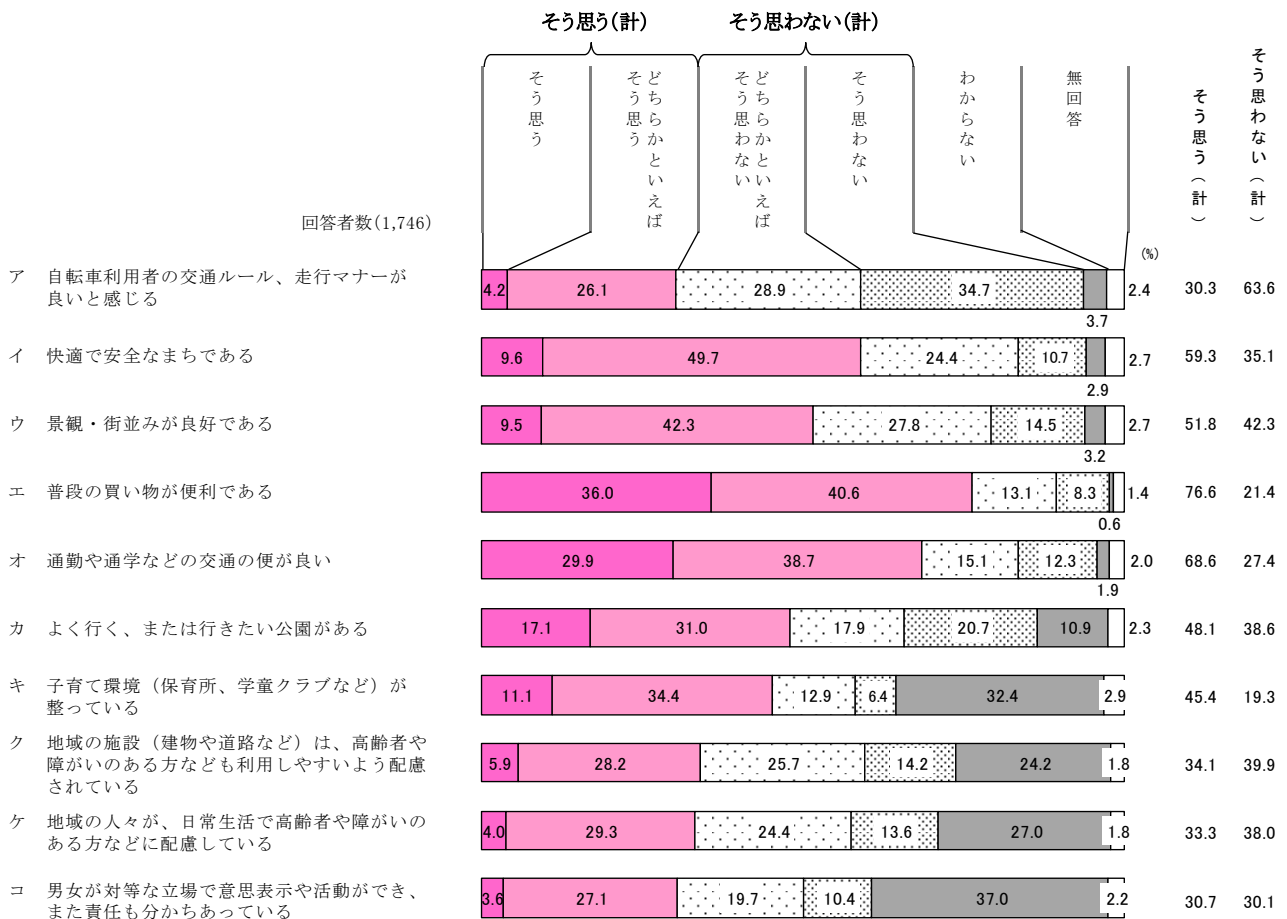
足立区

定住性

住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が76.6%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉68.6%、〈快適で安全なまちである〉59.3%の順となっています。

住まいの地域についての感じ方

【普段の買い物が便利である】と感じている人は、7割台後半となっています。

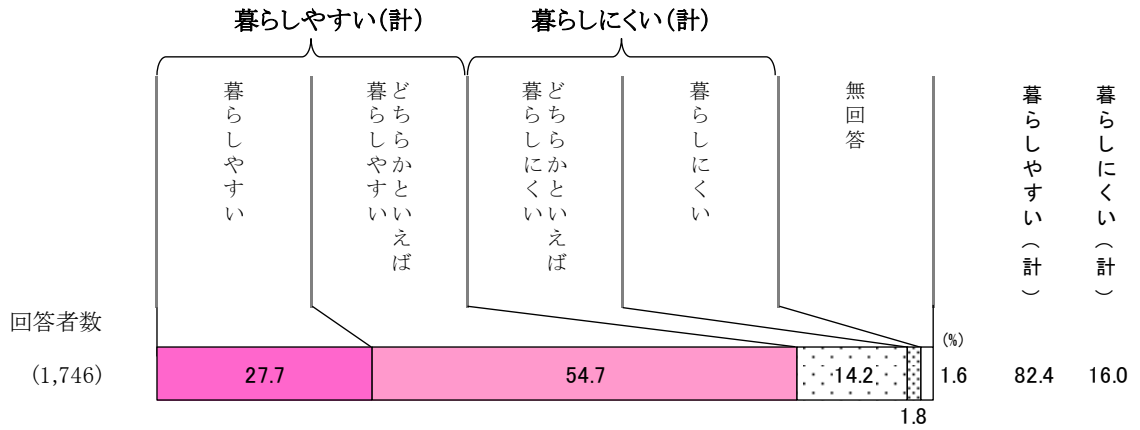


参考1： 百分比(%)と百分比(%)を合わせる場合、本来の実数値を合わせて算出した百分比を記しているため、その百分比は紙面上の百分比の合計と合わない場合があります。

2： 表題に(複数回答)と表記されている場合は、回答数に制限がないことを意味しています。

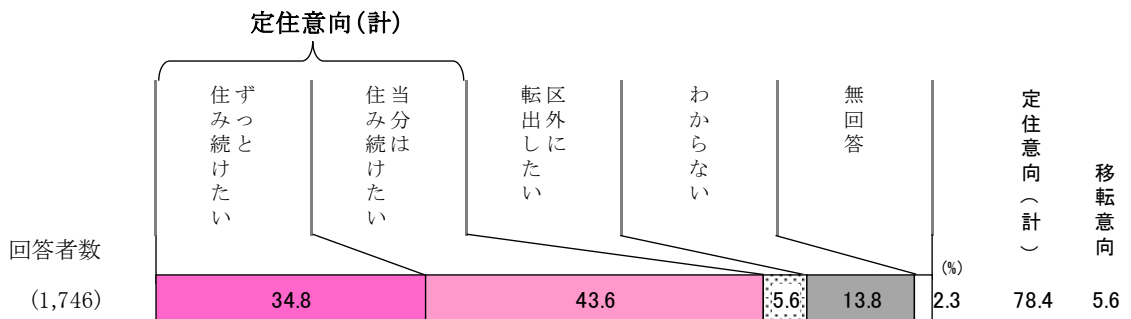
地域の暮らしやすさ

【暮らしやすい】は4年連続で、8割を超えています。



定住意向

【定住意向】をもっている人は、8割近くとなっています。



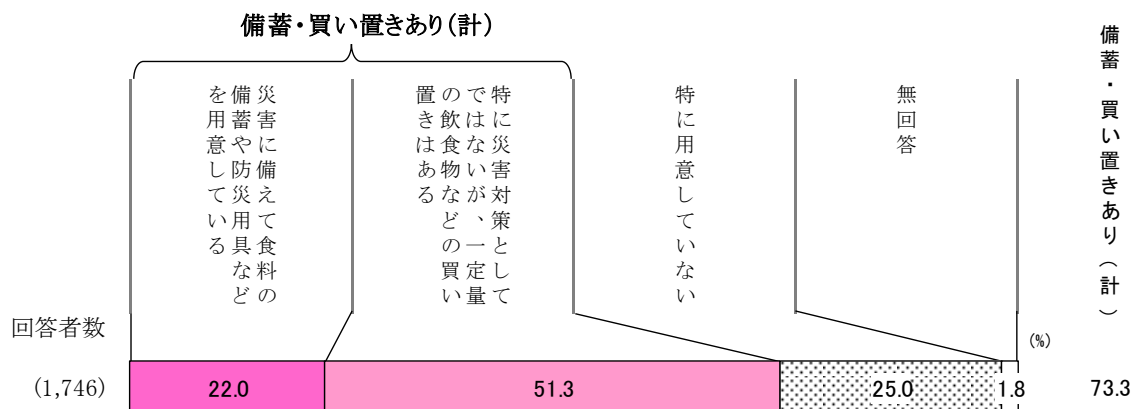
大震災などの災害への備え

災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.0%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が51.3%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は73.3%となり、前年より7ポイント増加しています。一方、「特に用意していない」は25.0%で7ポイント減少しています。

【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が83.9%で最も高く、以下「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（80.8%）、「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」（80.0%）の順となっています。

備蓄や防災用具などの用意

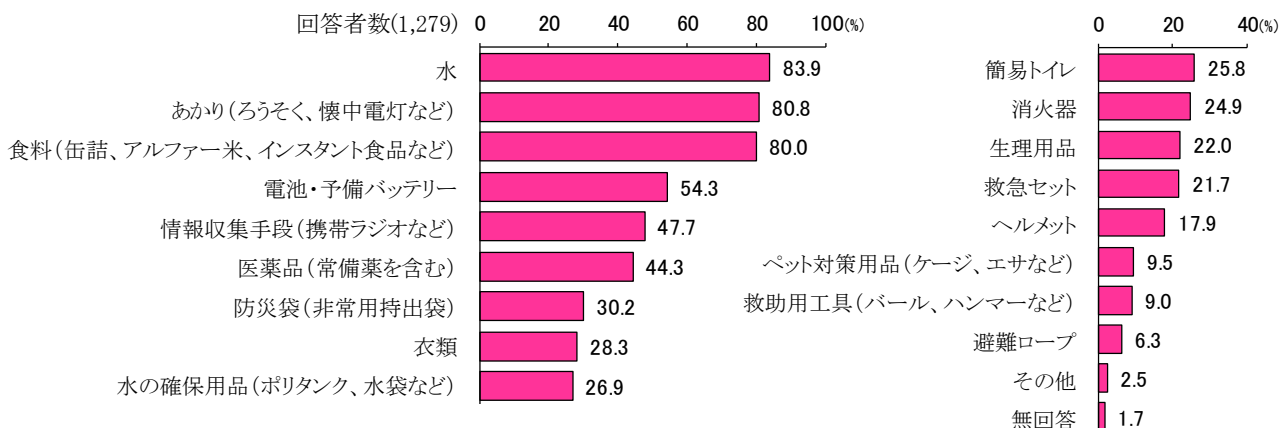
家庭備蓄をしていない人は、2割台半ばで、前年より7ポイント減となっています。



備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（複数回答）

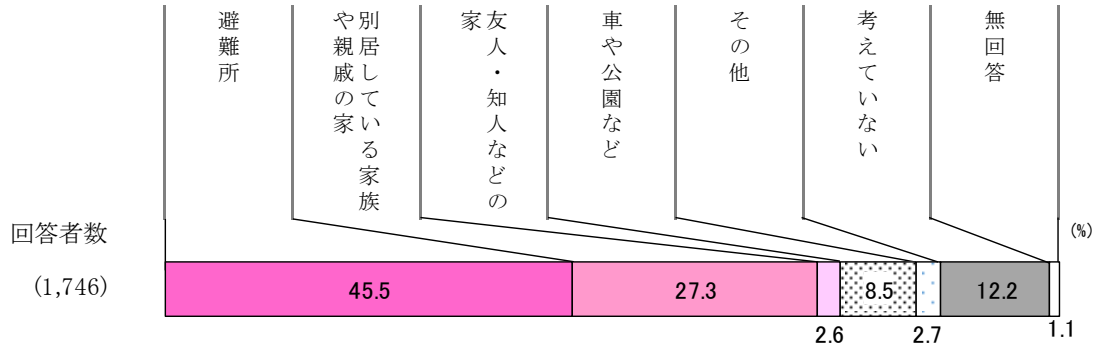
※【備蓄・買い置きあり】の人の回答

「水」が8割台半ば、「あかり」と「食料」が8割で並んで、上位となっています。



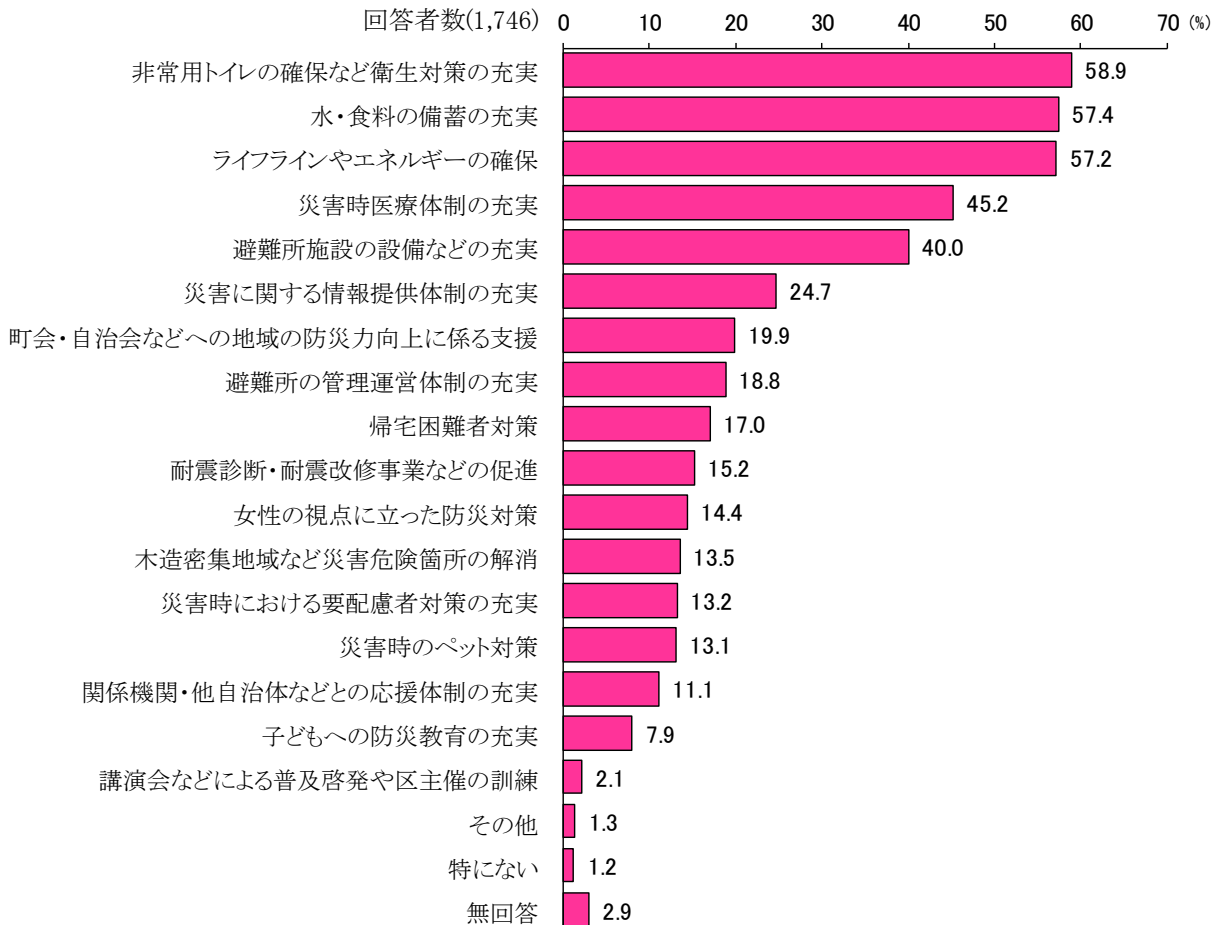
大規模災害時の避難生活場所

「避難所」が4割台半ばで中核ながら、「別居の家族や親戚の家」も3割弱と増加傾向です。



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと (〇は5つまで)

“衛生対策の充実” “水・食料の備蓄の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” の3項目が、それぞれ6割弱で並んで、例年同様に上位となっています。



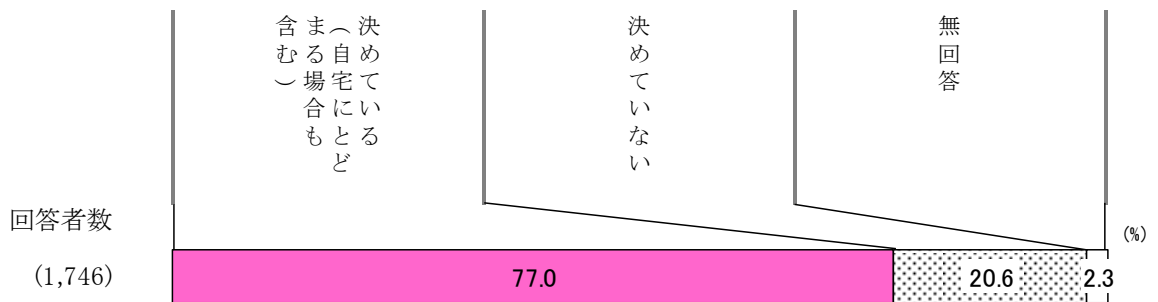
洪水対策

河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「避難する」は、“区から避難勧告・指示が発令されたとき”が64.1%で最も高いものの前年より14ポイント減少し、次点の“自宅付近が浸水したとき”が62.0%と前年より10ポイント増加して、6割台前半で並んで上位です。



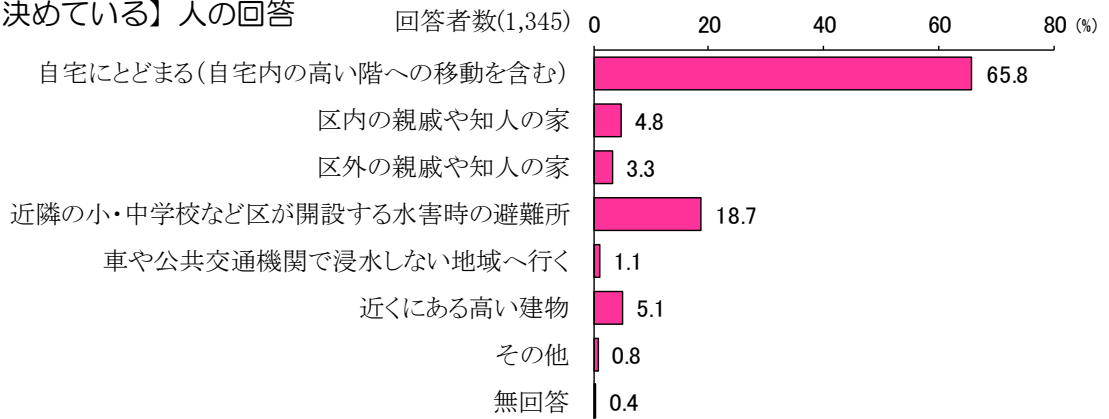
河川はん濫時における避難場所の事前決定有無とその避難場所・決めていない理由

「避難場所を事前に決めていない」人は8割弱。決めていない人の6割台半ばが「自宅にとどまる」と回答し、全体で約2割の決めていない人の理由では“避難場所がわからないから”が4割台半ばで最多。



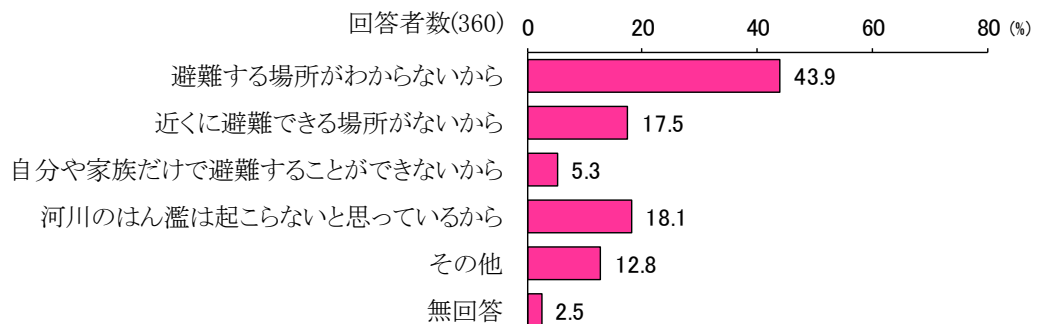
<事前に決めていない避難場所>

※【事前に決めていない】人の回答



<事前に避難場所を決めていない理由>

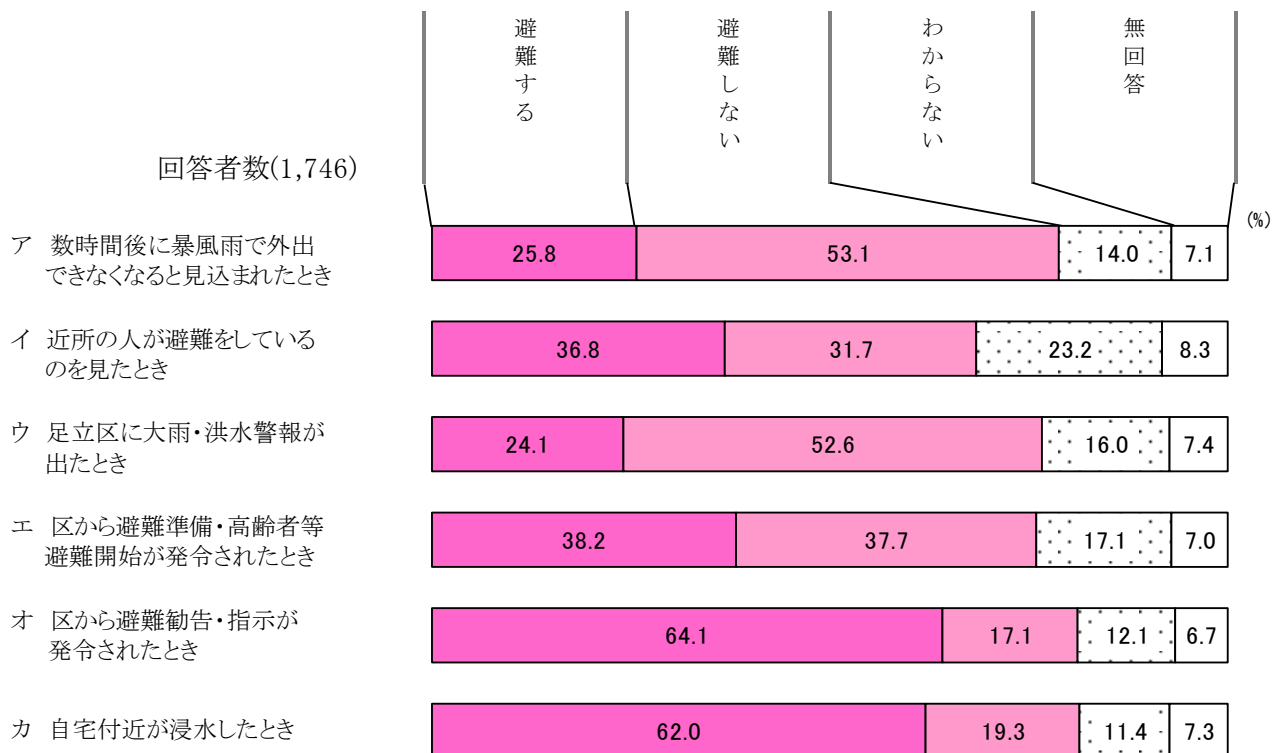
※【事前に決めていない】人の回答





河川はん濫による浸水被害の際の対処

避難をするという人の割合は“区から避難勧告・指示が発令されたとき”と“自宅付近が浸水したとき”でそれぞれ6割強～6割台半ばで多くなっています。

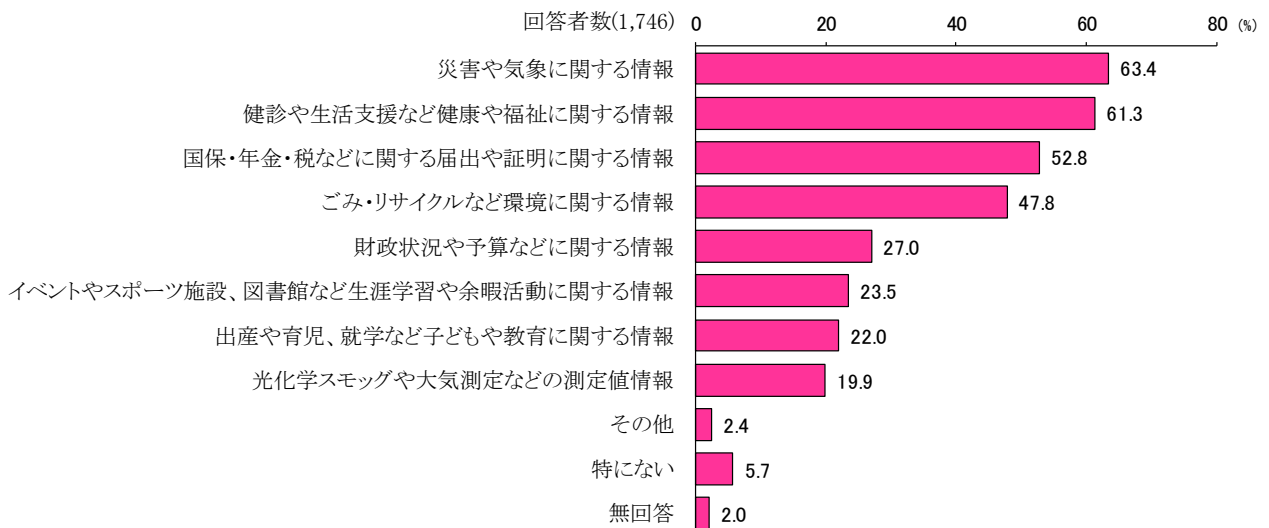


区の情報発信のあり方

重要とする区の情報としては、“災害や気象”が63.4%で最も高く、僅差で“健康や福祉”（61.3%）が続き、以下“国保・年金・税などの届出や証明”（52.8%）、“ごみ・リサイクルなどの環境”（47.8%）の順で続いて、上位4項目はこれまでと同様の結果です。

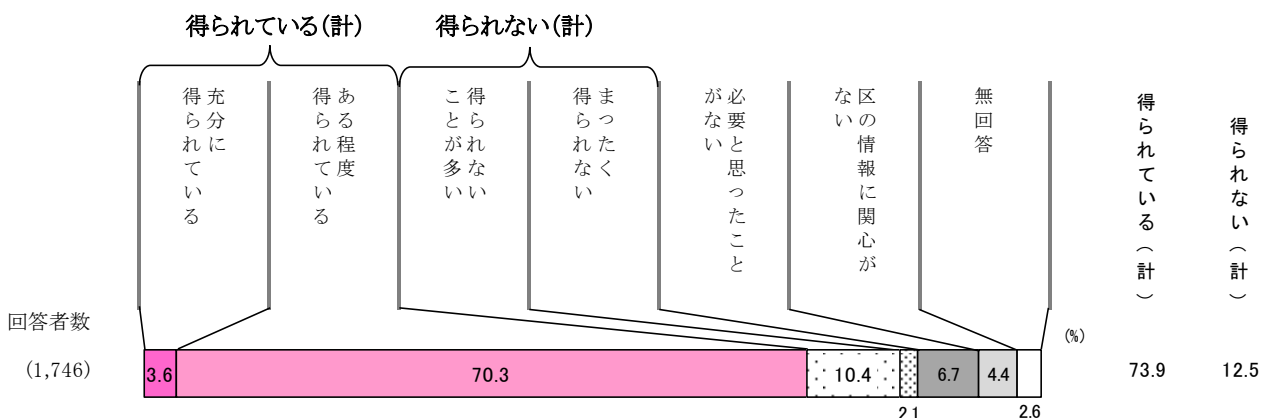
重要とする区の情報（複数回答）

“災害や気象”と“健康や福祉”が6割強で並んで、上位となっています。



必要な時に必要とする区情報の入手状況

必要な時に【得られている】が、7割台半ばとなっています。

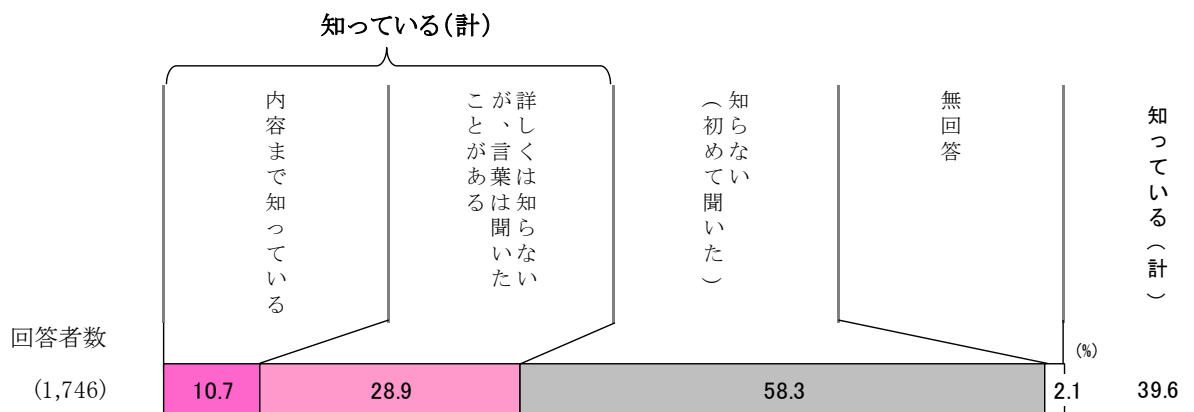


健康

《あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～》という区のキャッチフレーズを「内容まで知っている」は10.7%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の28.9%を合わせた【知っている】は39.6%で約4割となっています。

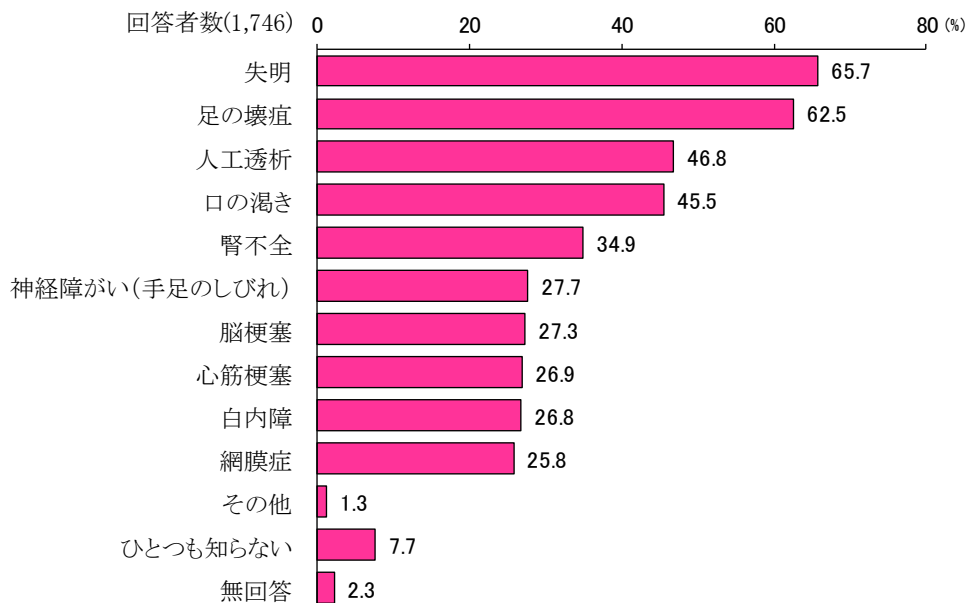
区のキャッチフレーズの認知状況

認知されている人は、約4割で、前年より微増となっています。



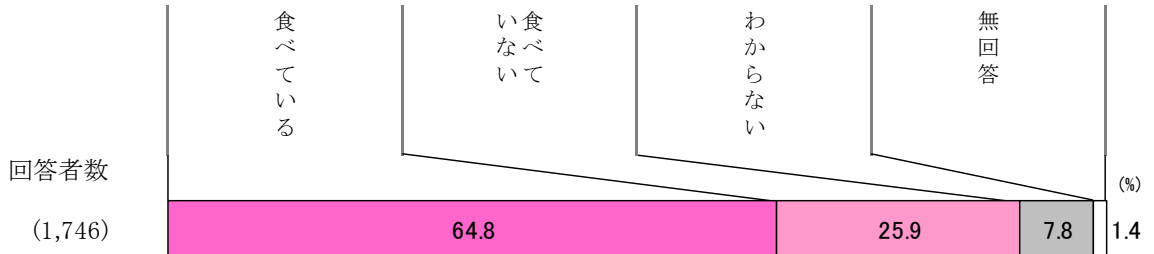
糖尿病の進行による病気や障がいの認識 (複数回答)

「失明」と「足の壊疽(えそ)」がともに6割台で、例年同様上位となっています。



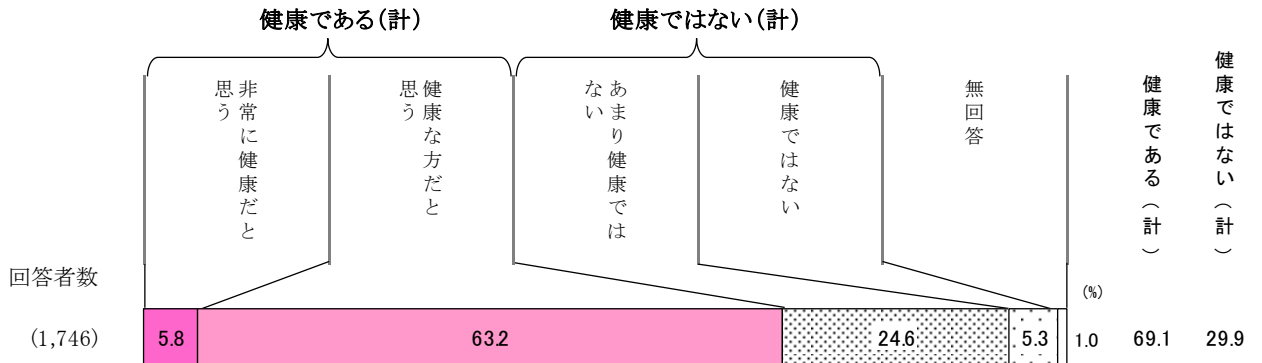
野菜から食べ始めることの実践状況

野菜から「食べている」人は、6割台半ばとなっています。



自分の健康自認度

自分は「健康ではない」と思っている人は、約3割となっています。



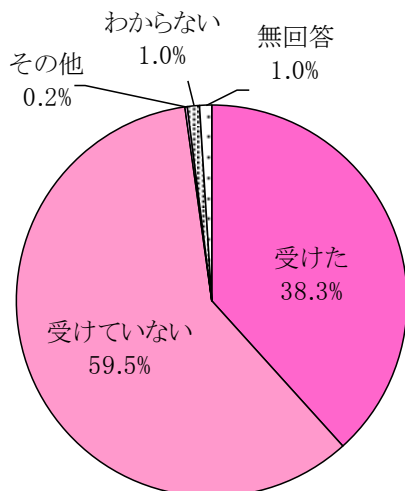
この一年間でがん検診の受診有無

受けたがん検診の種類(複数回答)

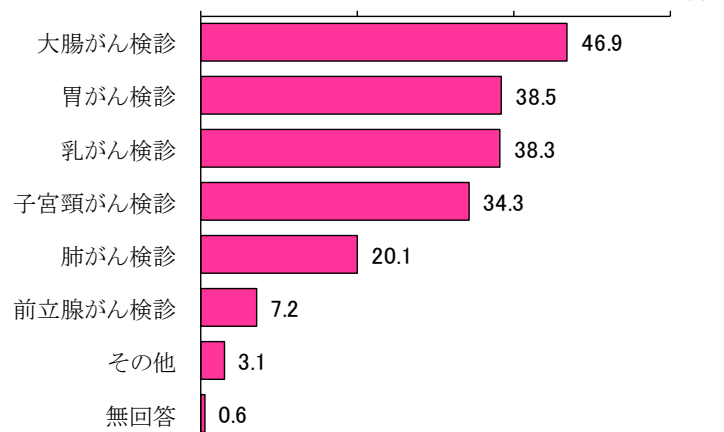
※【がん検診を受けた】人の回答

がん検診の受診率は4割弱。 受診した人の中では大腸がん検診が5割弱で最も高い。

回答者数(1,746)



回答者数(668)

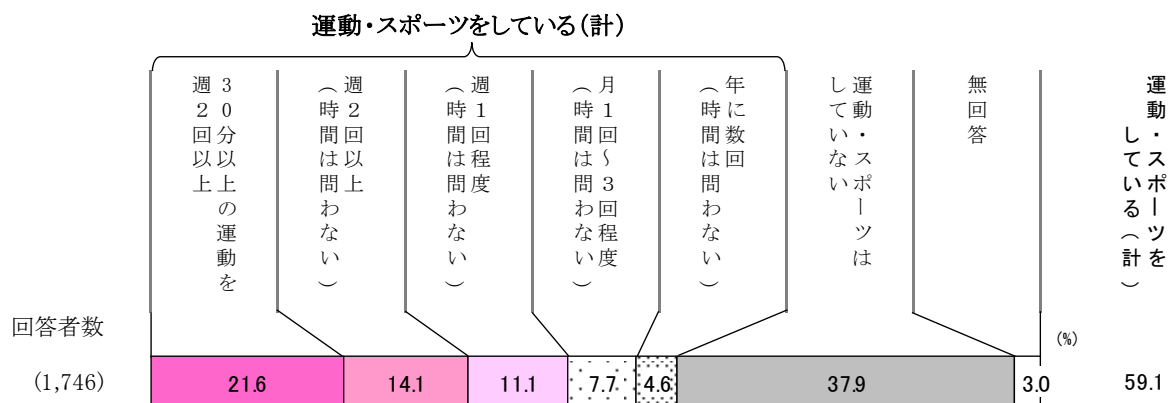


スポーツ・読書

「運動・スポーツはしていない」という人は37.9%となっています。
 行っている運動・スポーツとしては、「ウォーキング」が51.1%で最も高く、以下「健康体操」(24.8%)、「筋力トレーニング」(20.8%)の順で続いています。

日常的な運動・スポーツの実施状況

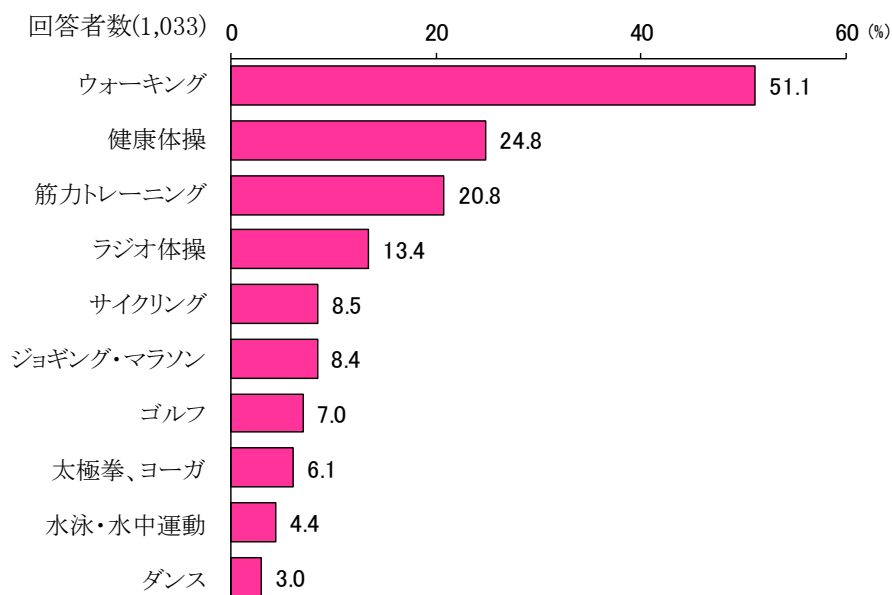
“運動・スポーツはしていない”という人は、4割弱となっています。



継続的に実施している運動・スポーツ(複数回答/上位10項目)

※【運動・スポーツをしている】人の回答

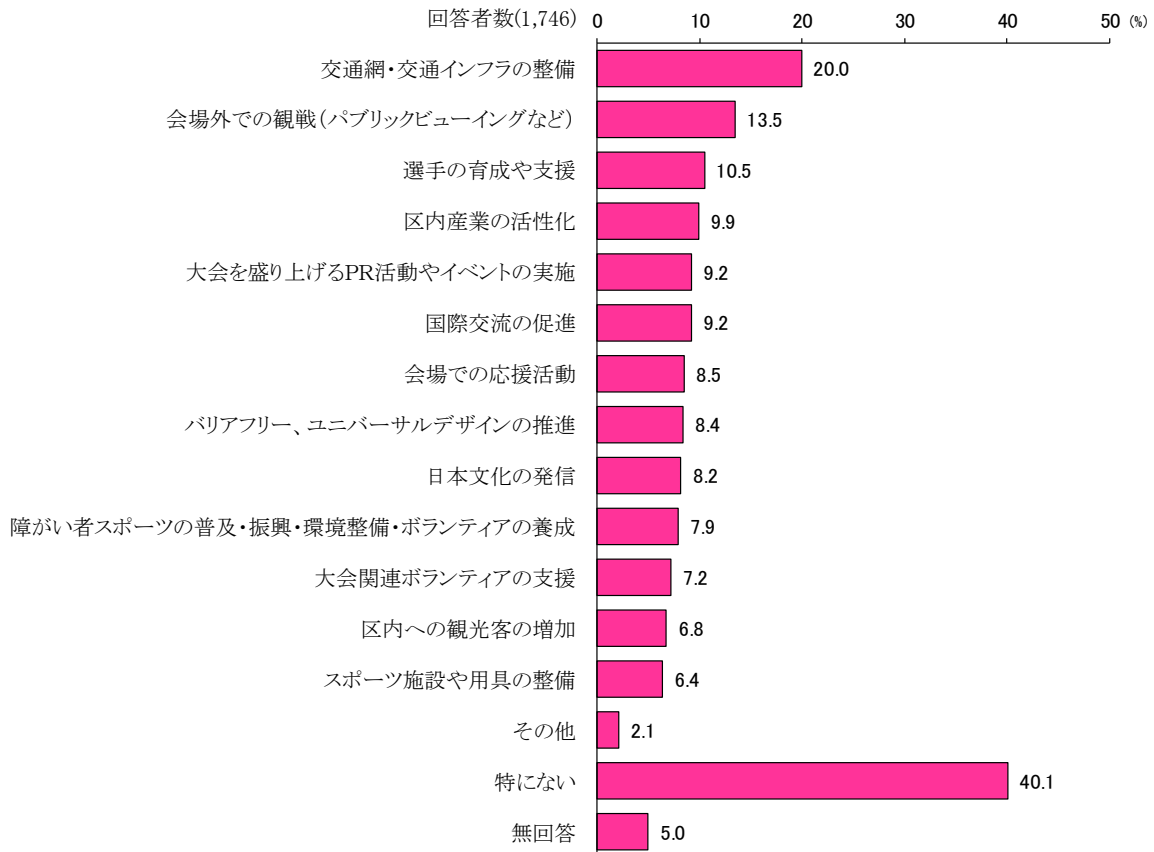
「ウォーキング」が5割強で、突出して高くなっています。





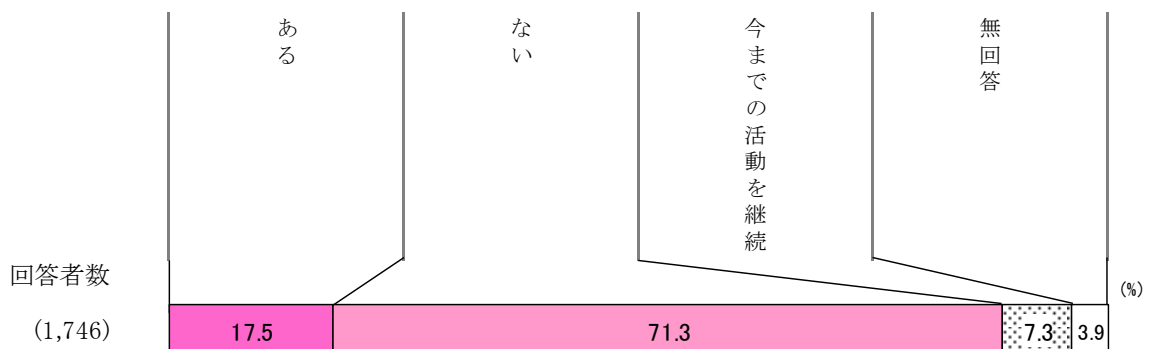
来年に延期となった東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること（〇は3つまで）

「交通網・交通インフラの整備」が2割で最も高いものの、「特にない」が4割に達しています。



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

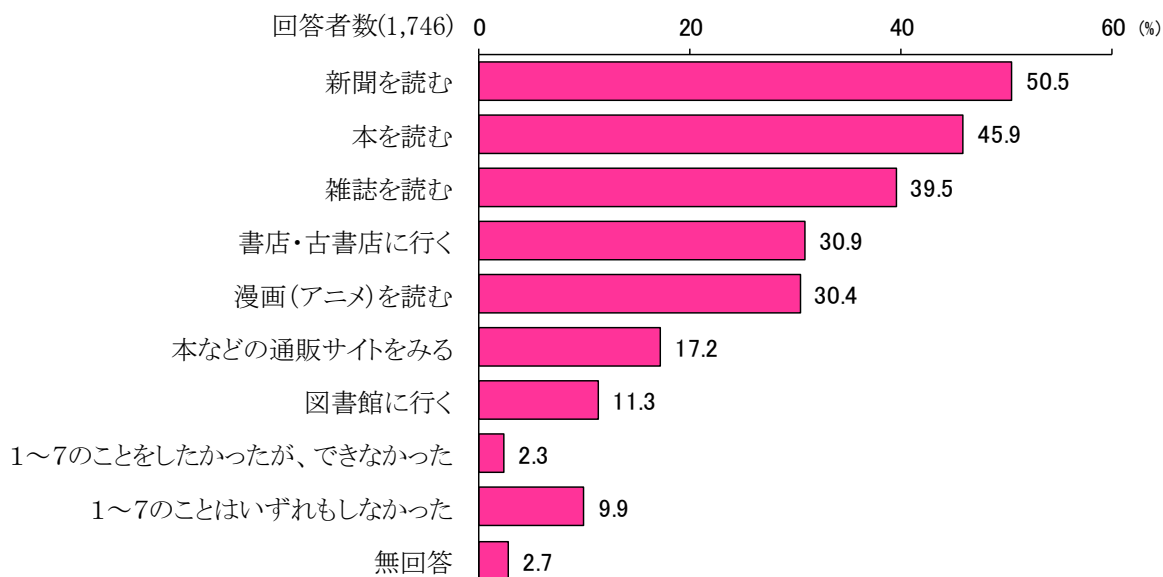
延期となった東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたい活動が「ある」人は2割弱みられるものの、「ない」人が7割強と多数になっています。





読書に関わる行動状況

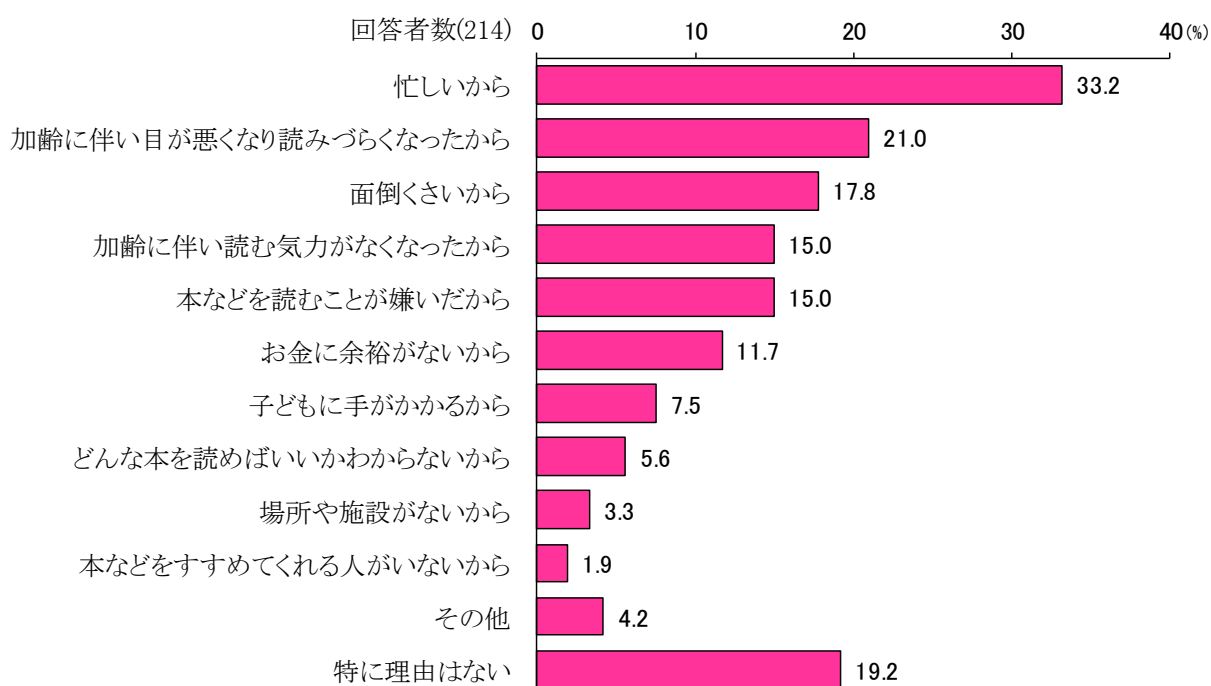
「新聞を読む」が5割超、「本を読む」が4割台半ばでともに高く、“できなかった”と“しなかった”は合わせても1割強となっています。



読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由（複数回答）

※読書に関わる行動がなかった人の回答

「忙しいから」が3割強で、読書に関わる行動がなかった人の理由の最上位です。

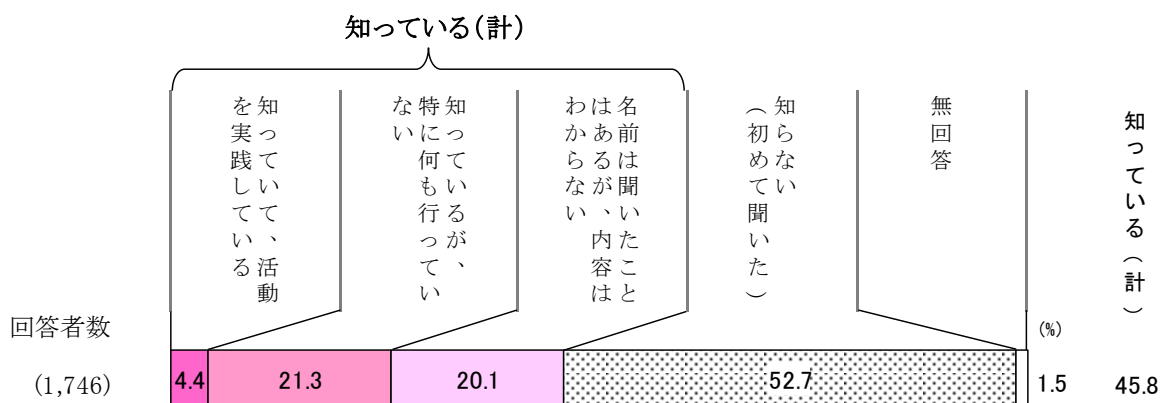


ビューティフル・ウィンドウズ運動

《ビューティフル・ウィンドウズ運動》について、「知っていて、活動を実践している」は4.4%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」(21.3%)、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(20.1%)を合わせた【知っている】は45.8%となっています。

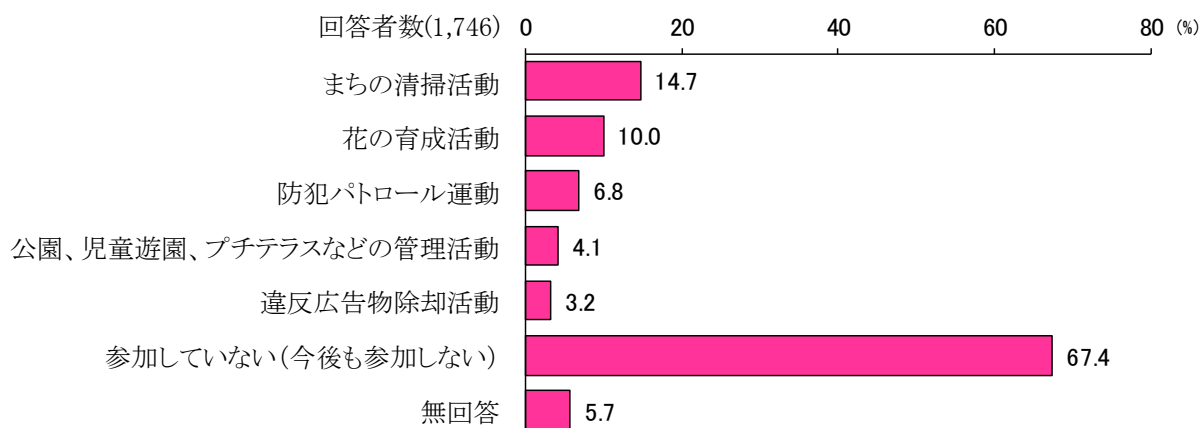
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

【知っている】は4割台半ばとなっています。



参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み (複数回答)

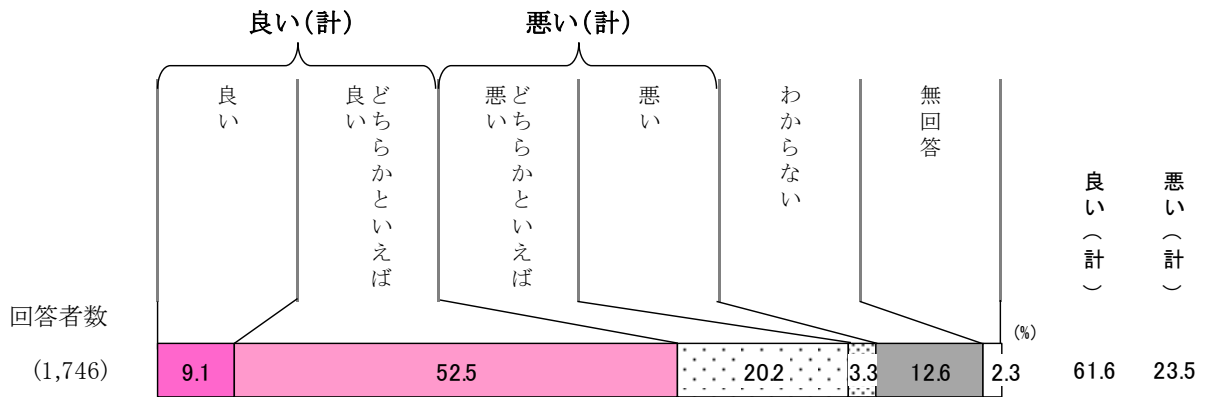
「まちの清掃活動」が1割台半ばで最も高いものの、「参加していない(今後も参加しない)」が7割弱となっています。





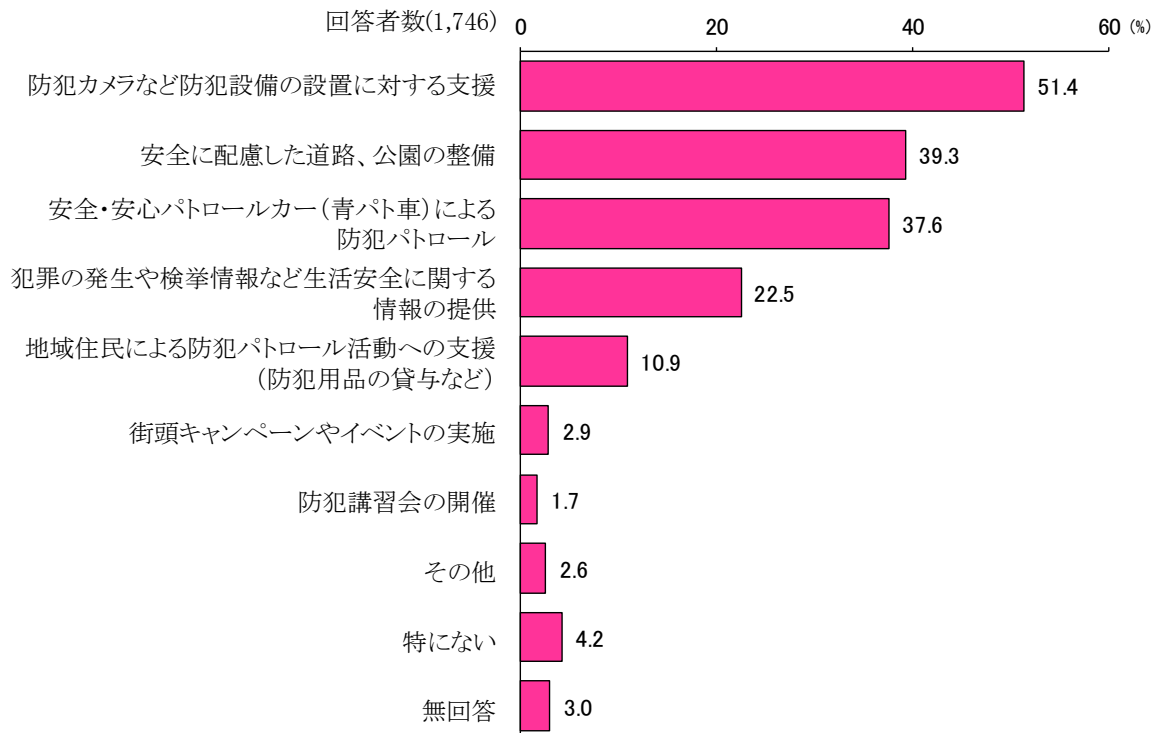
居住地域の治安状況

【良い】と感じている人が6割強で、【悪い】と感じている人が2割台半ばとなっています。



治安対策として区に力を入れてほしいこと (〇は2つまで)

“防犯設備の設置に対する支援”が5割強、“安全に配慮した道路、公園の整備”と“安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール”がともに4割弱で続き、上位となっています。

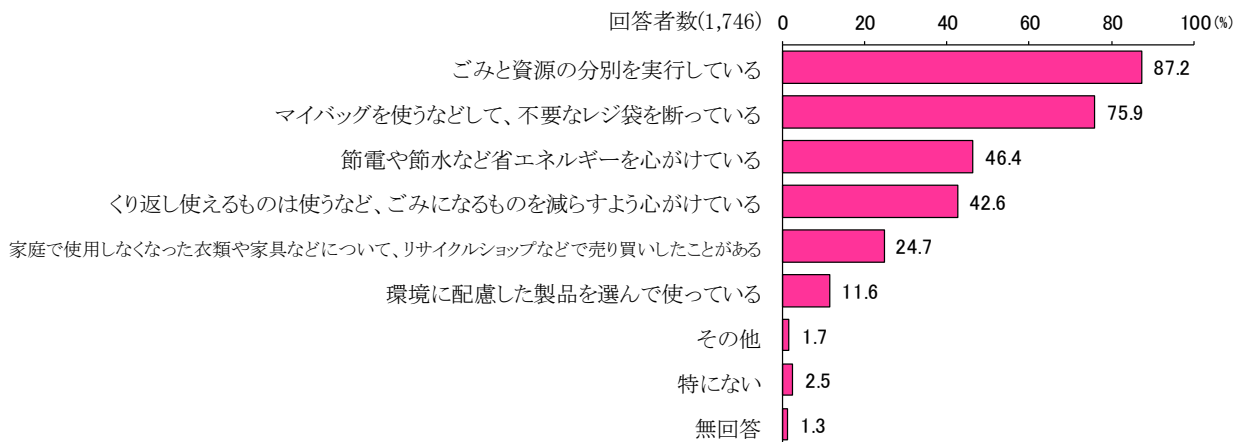


環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.2%で最も高く、次いで、前回より19.4ポイント増加した「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(75.9%)が続き、上位となっています。

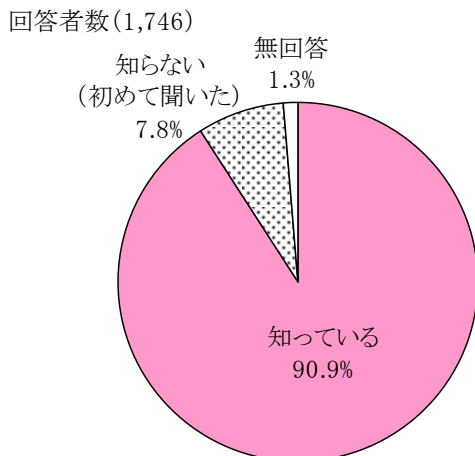
環境のために心がけていること（複数回答）

“ごみと資源の分別”が9割弱、“レジ袋を断る”が7割台半ばで、この両項目が上位ですが7月からのレジ袋の有料化に伴い“レジ袋を断る”は前回より20ポイント近く増加しています。



「食品ロス」という言葉の認知

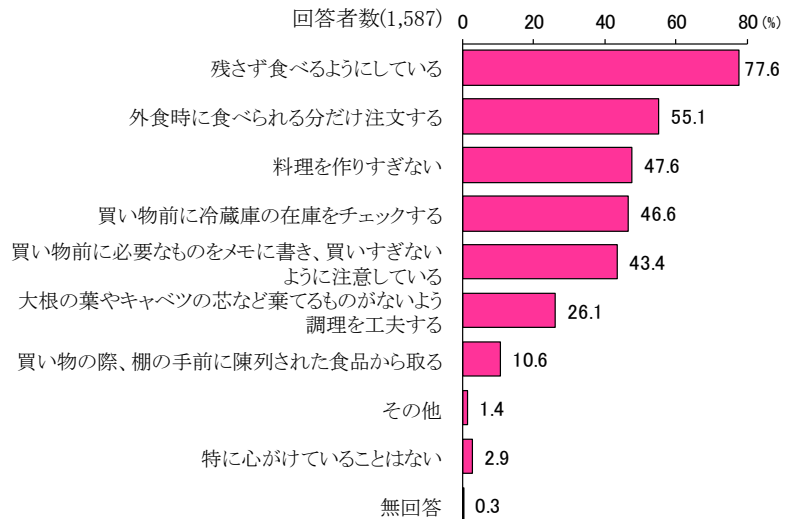
言葉の認知率は、9割を超えています。



食品ロス削減のために心がけていること

(複数回答) ※食品ロスを知っている方の回答

“残さず食べる”が8割弱となっています。

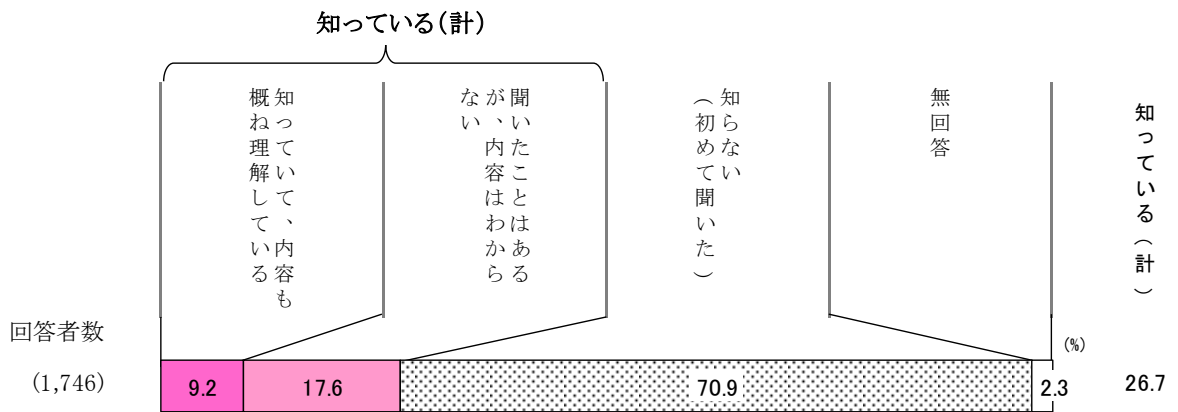


「孤立ゼロプロジェクト」など

《孤立ゼロプロジェクト》について、「知っていて、内容も概ね理解している」は9.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の17.6%を合わせた【知っている】は26.7%となっています。一方、「知らない（初めて聞いた）」は70.9%を占めています。

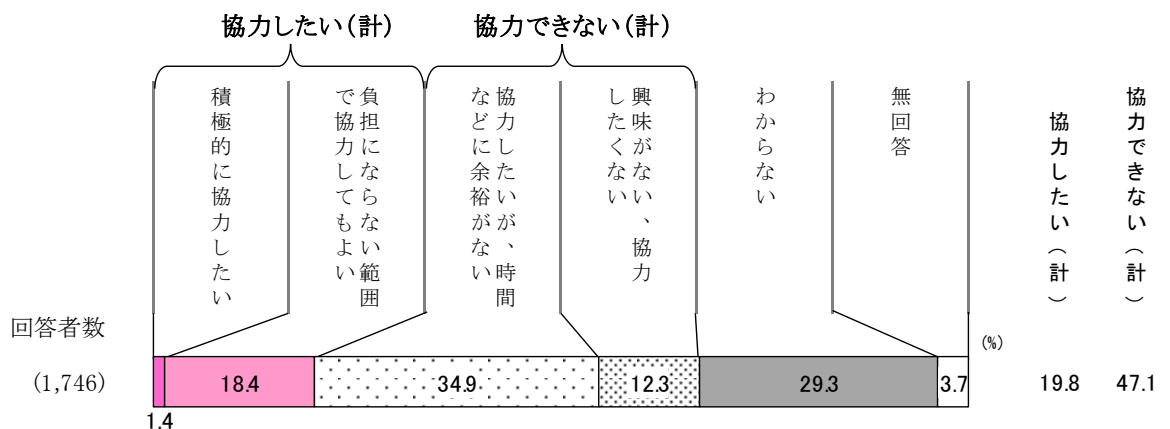
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

【知っている】が2割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が7割超となっています。



高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

【協力したい】の約2割に対して、【協力できない】は5割弱となっています。

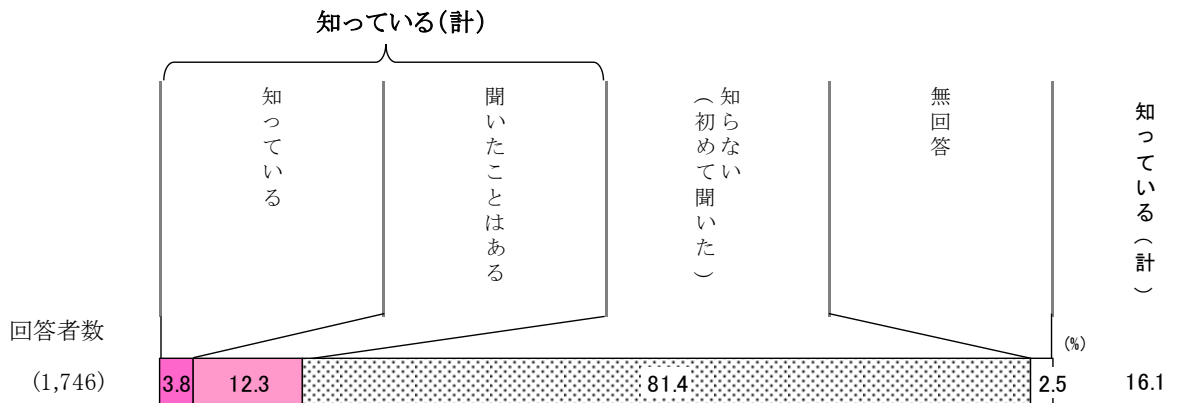


協働・協創

《協創》について、「知っている」は3.8%で、これに「聞いたことはある」(12.3%)を合わせた【知っている】は16.1%となっています。一方、「知らない」は81.4%を占めています。

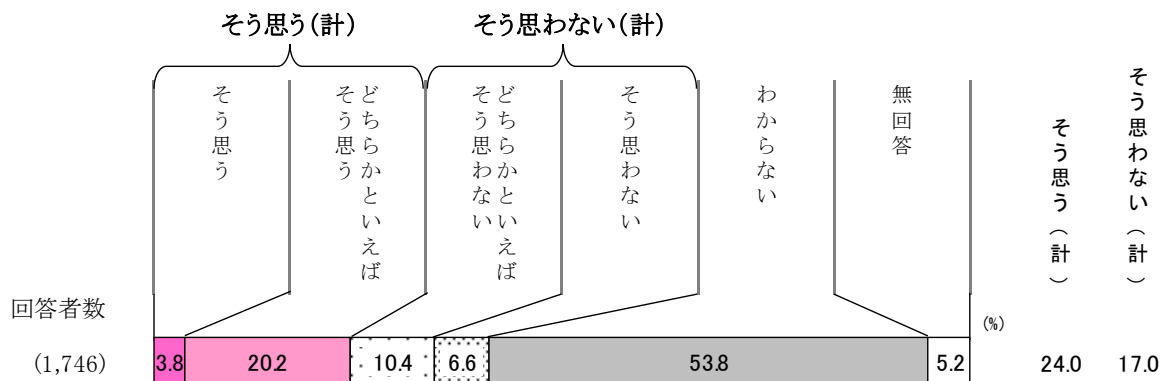
「協創」の認知

【知っている】は1割台半ばで、「知らない(初めて聞いた)」が8割強を占めています。



区役所・区民・団体の協力や連携(協働)による事業推進の評価

【そう思う】が2割台半ばで、1割台後半の【そう思わない】を上回って多くなっていますが、「わからない」が半数以上を占めています。



区取り組み

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「治安対策」「交通対策」などは、現状評価（満足度）が低く、重要度が高くなっています。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

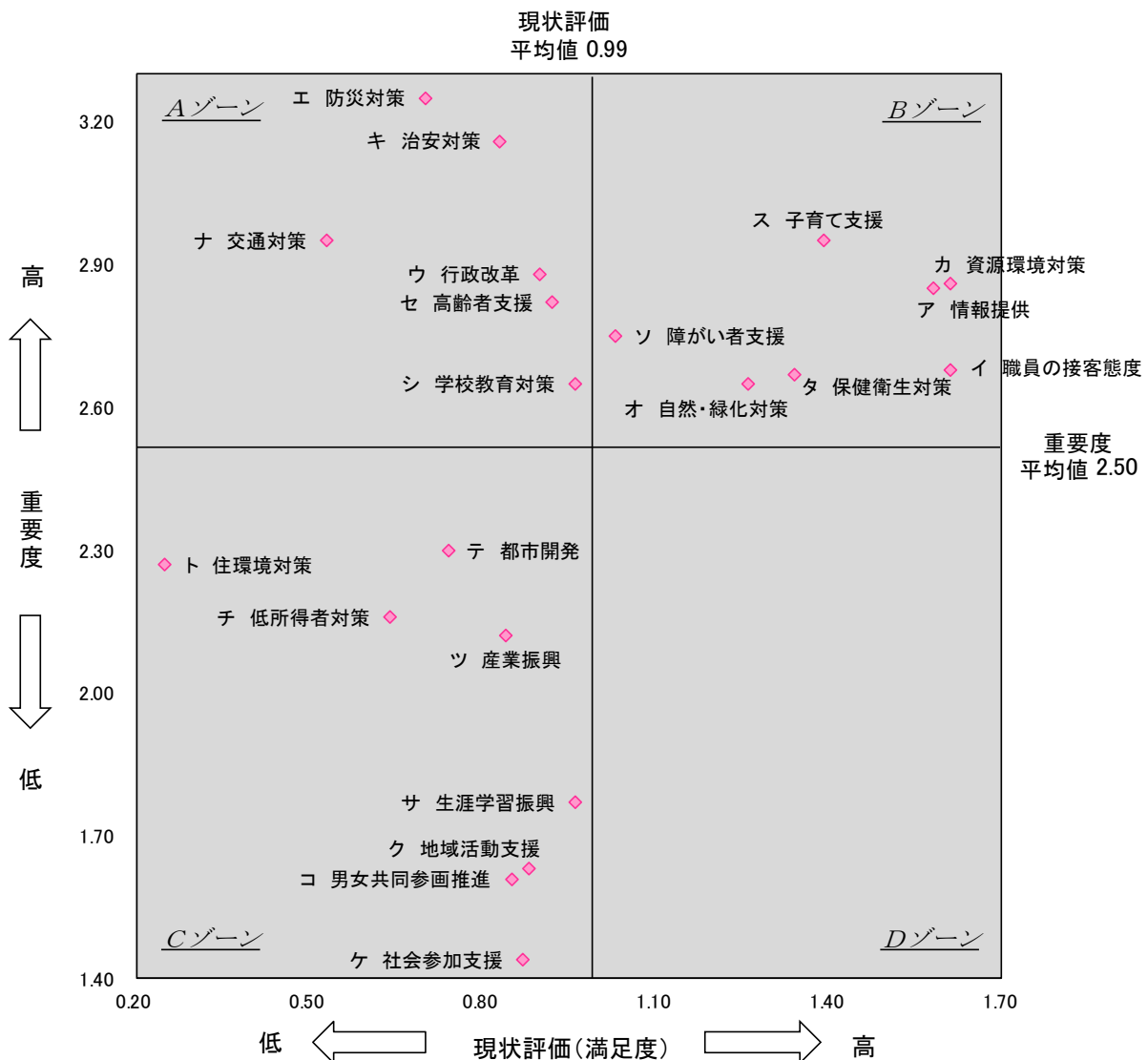
「資源環境対策」「情報提供」「子育て支援」「職員の接客態度」などは、現状評価（満足度）と重要度の両面で高くなっています。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住環境対策」「低所得者対策」などは、現状評価（満足度）と重要度の両面で低くなっています。

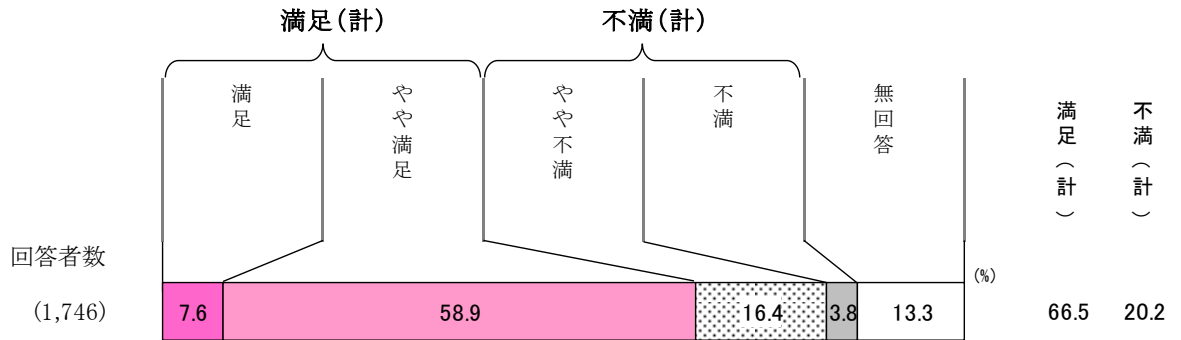
D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

ここにあてはまる項目はひとつもありません。



区政に対する満足度

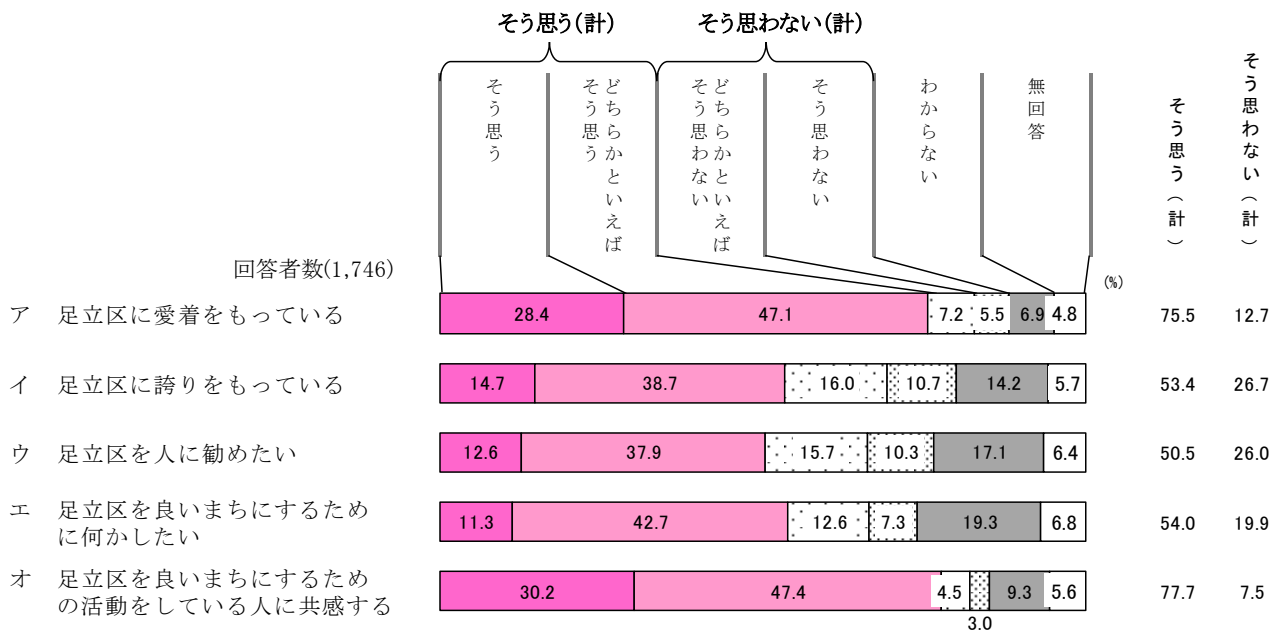
【満足】は6割台半ばを占め、約2割の【不満】を大きく上回っています。



区に対する気持ち

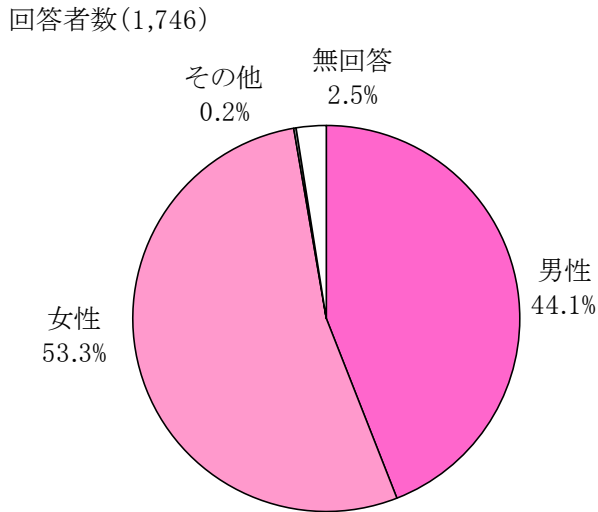
平成21年より聴取している“愛着を持っている”“誇りを持っている”“人に勧めたい”の3項目について、【そう思う】は、いずれも半数を超えて安定して高い割合を示しています。

平成30年より新しく追加された、“良いまちにするために何かしたい”では、【そう思う】と回答した人が5割台半ばと高い割合となり、“良いまちにするための活動をしている人に共感する”では、【そう思う】が8割近くに達しています。

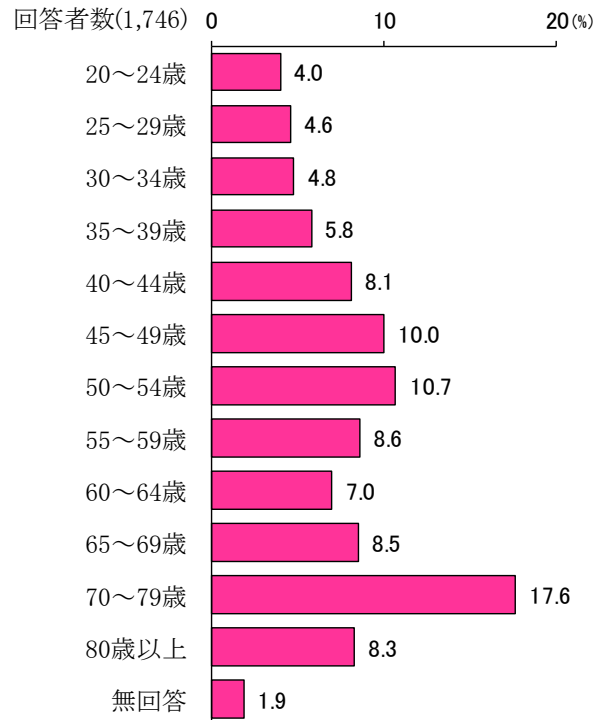


標本構成

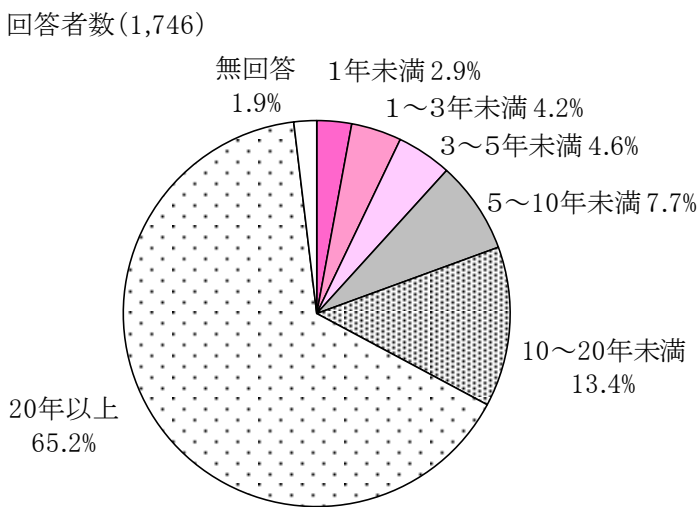
性別



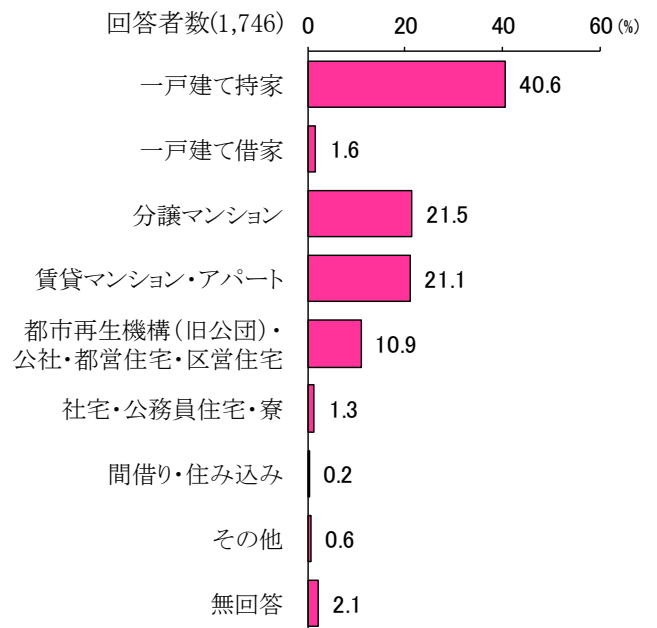
年齢



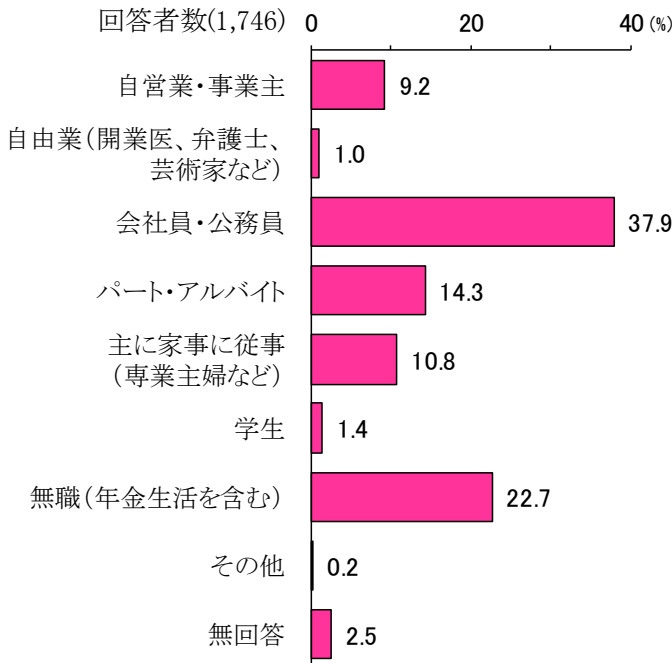
居住年数



住居形態

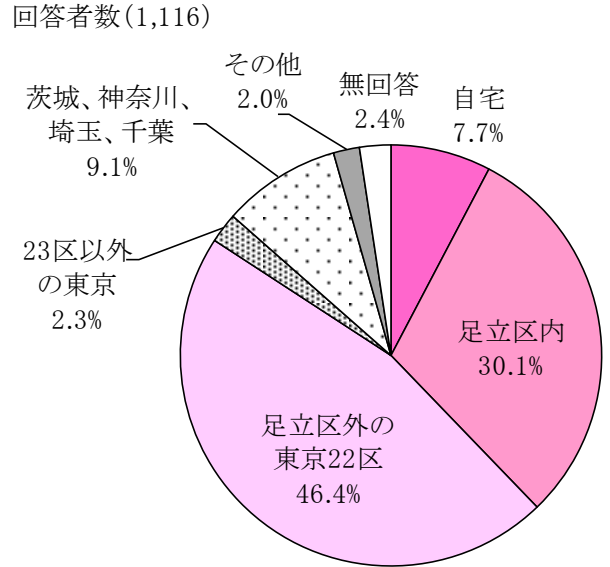


職業

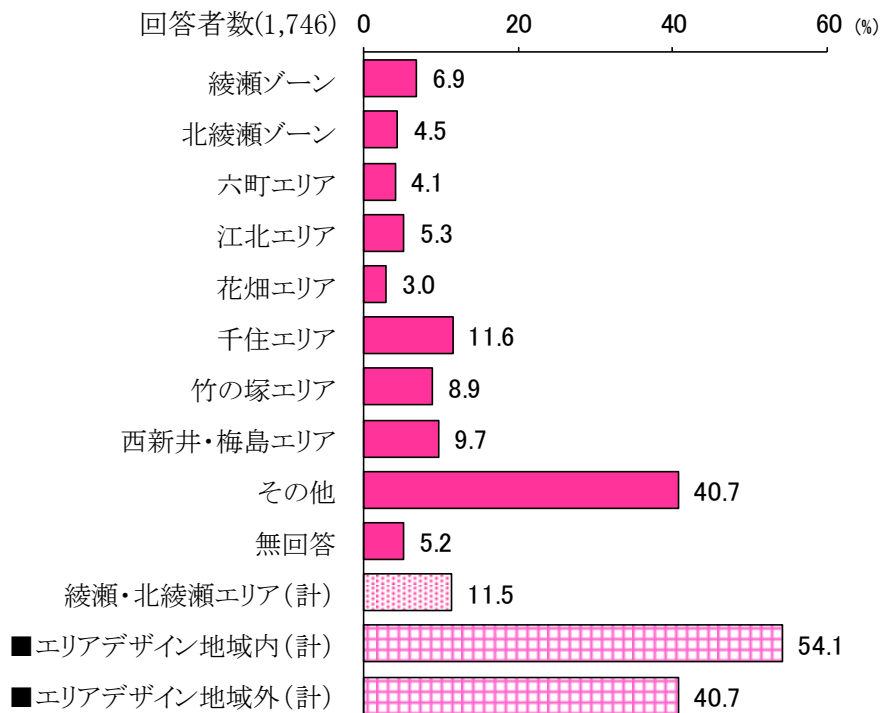


就労(就学)場所

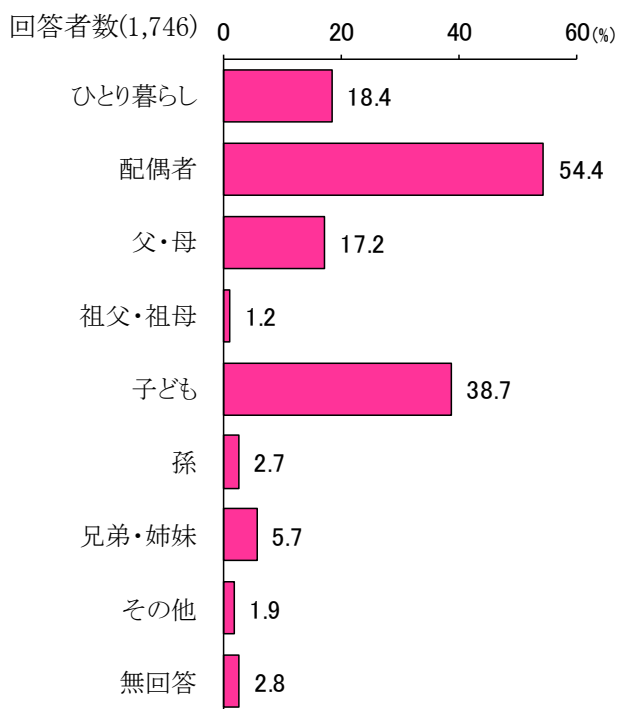
※就労者、就学者ベース



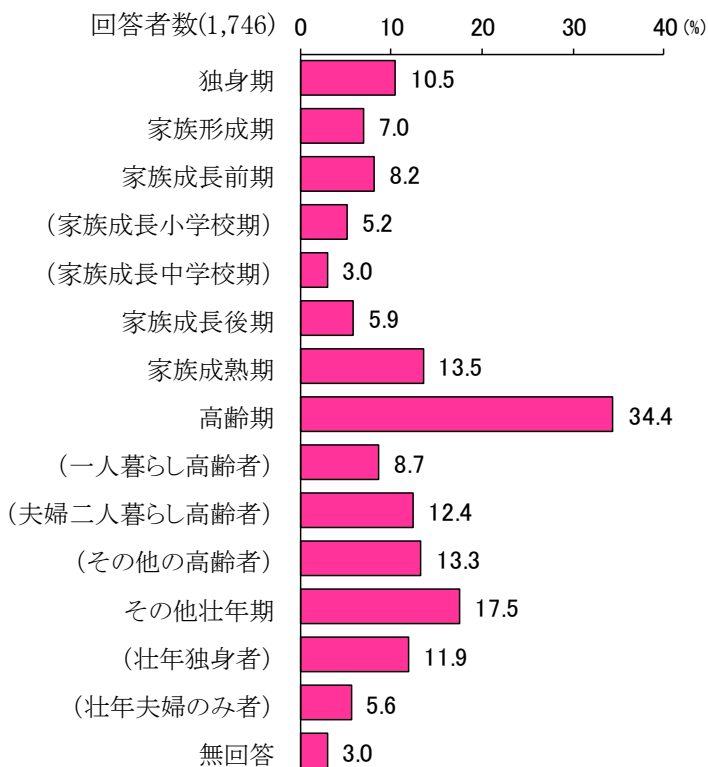
エリアデザイン



同居家族（複数回答）



ライフステージ



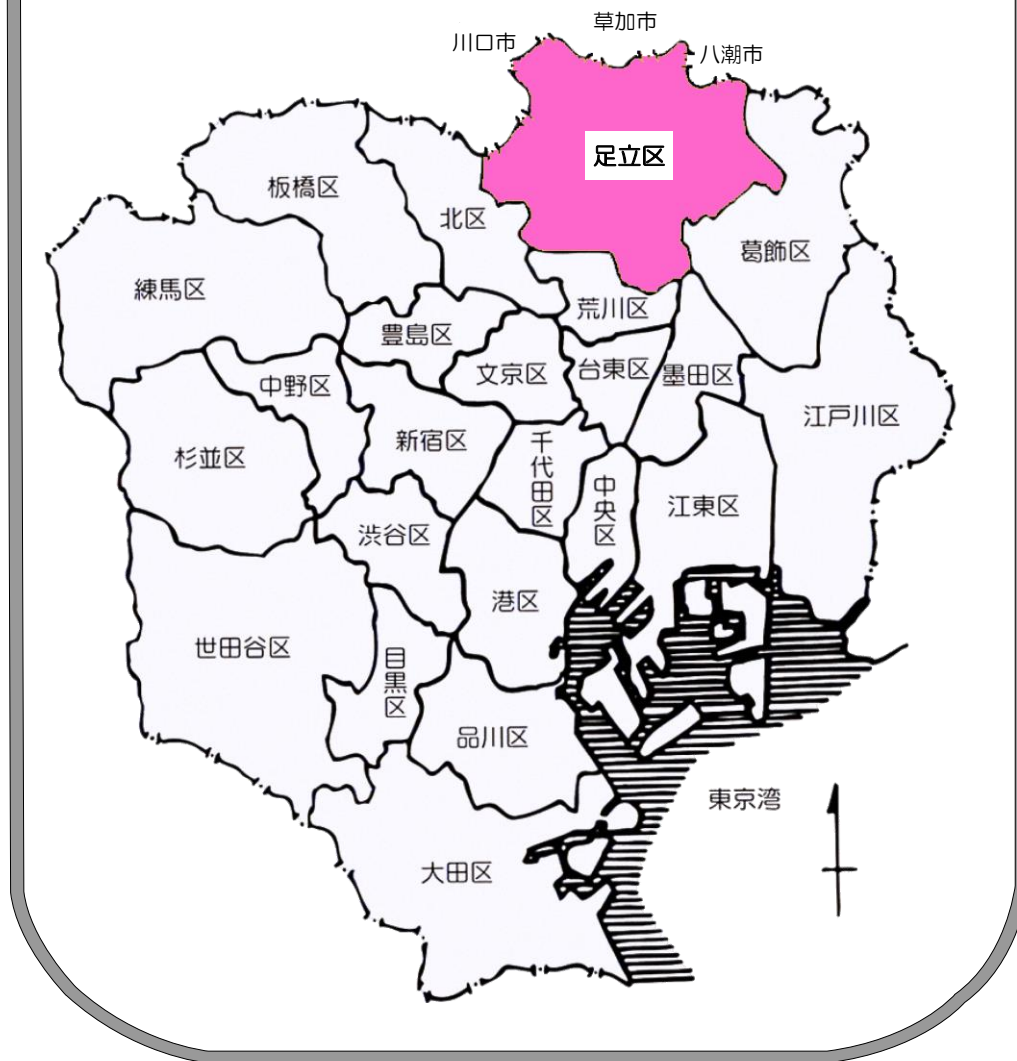
《 ライフステージの定義 》

ライフステージ別（7カテゴリー）

- ・ 独身期 40歳未満の独身者
- ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
- ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
- ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
- ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、
 夫婦二人暮らし以外の人
- ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

足立区の面積 53.25km²
人口 691,002人
世帯 357,044世帯

*令和3年1月1日現在



足立区 政策経営部 広報室 区政情報課

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

TEL 03(3880)5111(代)

世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課